





母校ニュース

山崎普録氏蠶絲總覽係となる 蠶に養蠶科事務室より圖書課勤務となられておた山崎普録氏は五月一日より再び養蠶實習囑託として養蠶科に席を置き養蠶實習事務の傍ら蠶絲總覽の編輯事務を取扱ふ事となつた。

副手會副設さる 母校に在る千曲會員の講師兼副手、副手及雇員等は其の一致團結により向上發展、相互の親睦を計り併て母校教育、研究に盡力するの目的を以つて四月二十六日副手會を設立し、毎月一回親睦會を開く外、従来の談話會の振興、蠶絲總覽の充實に努めると共に各科副手等の間の親密さを増進する事になつた。幹事は湯原諒、高橋真澄、宮坂收細川豊、古平庄衛、町田博氏等である。

小見益男氏新任 昨年八月より蠶絲總覽の編輯をされてゐた小見益男氏(蠶三)は五月一日蠶絲化學實驗囑託を命ぜられ蠶絲化學の研究をされる事となつた。養蠶三年生紅葉山御養蠶所拜觀 養蠶科三年生は行元教授、山口助教、武井副手引率の下に紅葉山御養蠶所拜觀に赴き左記日程にて其他の見學視察をなして十一日歸校した。

五月七日 農事試驗場 東京高蠶 午前 午後 全 八日 日曜日故自由見學 全 九日 御養蠶所拜觀 傳染病研究所 全 十日 蠶絲試驗場 理化學研究所 時局講演 五月七日午前十時より母校講堂に於て陸軍少將 齋藤清一氏の時局講演があり全校職員生徒聴講し非常時の認識を深めた。

修己寮々祭 五月八日(日)に修己寮々生は本年始めて寮祭なるを催した。即ち寮内全部を一般に開放し各部屋にはデコレーション其他滑稽なる飾付をなし食堂に於ては簡單なる舞臺を作つて餘興なども有つた。當日は一寸小雨もあつて天氣

は好くなかつたが数日前より支那そば、だんご、しるこ、ソーダ水等の食券を賣りに歩いたり、ピラ等で宣傳したので相當賑ひ三千人餘の觀覽者があつた。

青木静志氏應召 昨年十二月より製絲科に副手として勤務されてゐた青木静志氏(絲二四)は〇月〇日召集され十日に職員會の壯行會に臨み十一日全校の見送りを受けて〇〇驛を出發十五日〇〇隊へ入隊された。

講演と音樂の夕 五月十日午後七時より講堂に於て辯論部、音樂部主催にて左記の如き「講演と音樂の夕」が催され、學校職員學生及び一般市民で非常に賑ひ感動を興へた。朝倉昇氏は御承知の如く母校養蠶科一回卒業生である。

講演 時局經濟の動きと統後國民の自覺 元朝總督府專賣支局長 拓務省殖産獎勵館主事 朝倉經濟研究所長 朝倉昇氏 昇氏 音樂 ソプラノ獨唱 彌波高女出身 谷田信子氏 音楽學校出身 谷田信子氏 ピアノ伴奏 元女子師範 教諭 朝倉光子氏 東京音樂學校出身 朝倉光子氏 曲目は左の如し

殖生の宿、お江戸日本橋、からたちの花 ジョスランの子守唄、出舟、日の丸行進曲、愛國行進曲、子守唄、小諸なる古城のほとり、其他 古平庄衛氏講師となる 昨年十月より母校蠶絲化學教室に副手を勤められてゐた古平庄衛氏(絲一九)は今度製絲科に轉勤となり五月十日付を以つて講師に任命され教養養成科生徒の物理、化學、全實験(之は本年度より創始)、數學、菌検査屠物整理論、全實習を擔任される事となつた。

真正已教授新任 曩に化學界及び纖維化學界の第一人者として母校のホープであつた金子英雄先生を失つて非常に寂寥を感じてゐた母校蠶絲化學部に、同先生

と同様化學界、蠶絲學界に其の偉名を知られ學德兼備の真正已先生を迎え得た事は實に喜ばしき限りである。同先生は大府豊能郡歌垣村の御出身で明治三十五年の御出生で本年三十七才、大正十年三月兵庫縣立鳳鳴中學校卒業、同十三年三月第八高等學校理科甲類卒業、同年四月京都帝大農學部農林化學科入學、昭和二年三月同科を修めて學士試験に合格、同年四月同郡製絲株式會社に入社、同年六月同社の理化學研究所に補せられ、同年八月同社同研究所長に補せられ現在に至つたもので、昨年四月には論文「家蠶繭絲色素の化學的研究」に對して京都帝大より農學博士の學位を授けられており篤實、勤勉で實に明朗、体育運動には特に御趣味があり、剣道は三段の腕前、テニス、野球、登山を好まれ、スキー、ピ

鷹野誠一氏御結婚 過般母校を退職、滿洲國熊岳城農試場に行かれた鷹野誠一氏(絲一七)は今良縁を得られたので五月上旬郷里小縣郡鹽川村に歸り母校林貞三教授の御媒約にて上田市鷹匠町大塚隆二氏長女初惠嬢と御結婚、五月十三日上田市鷹真町總宜亭に於て華燭の典を挙げられ、十八日には大屋驛より同伴にて任地滿洲に向はれた。尙新婦は上田高女卒業後更に同校專攻科を卒業された才色兼備、至つて明朗な方で芳紀正に廿二才の由、御健勝、御圓滿の程を祈る次第である。

校友會歌發表演奏會 母校音樂部では五月十四日午後七時より講堂に於て校友會歌發表演奏會(春季音樂會)を催したが今演奏會は特に上田マンドリン俱樂部、からたち混聲合唱團の應援を求めた爲に非常な賑はひを呈し講堂の階上階下共超満員の盛況であつた。演奏曲目は左の通りである。

第一部 1、ハローモニカ合奏……指揮 鹽入 校歌、校友會歌(橋本國彦作曲、鹽入編曲) 2、ハローモニカ合奏 君が代行進曲、愛國行進曲 3、マンドリン合奏……上田マンドリンクラブ(指揮飯島氏) レッドウイング、ダニユーア河の漣 4、ハローモニカ獨奏……井口泰之助氏 ドンホセ、ジブシータンゴ、タンゴリーザ(井口編曲)、故郷への憧(井口編曲) 5、合唱……からたち混聲合唱團 いろは歌、權兵衛と田吾作、モツアルトの子守唄 6、ハローモニカ合奏……アメリカンパトロール、キスマツ

第二部 1、尺八獨奏……濱田 小鳥の歌 2、アッコイデオノン獨奏……中錦

ラスパニョラ、ドリゴのセレナーデ 3、ギター獨奏……鹽入 黒い瞳、スパニッシュファンタンゴ 4、ハローモニカ合奏 カルメン闘牛士の行進 5、マンドリン合奏……上田マンドリン俱樂部 6、獨唱……楠八重(ギター伴奏、鹽入) アロハオエ、青春旅情

第三部 1、ハローモニカ合奏 軍艦行進曲(鹽入編曲)、カッコイワルツ 2、尺八二重奏 春の宵 3、マンドリン三重奏……音樂部 アイルランドの娘、マドロスの戀 山の人氣者 4、マンドリン合奏……音樂部 ボルガマーチ、校友會々歌

農場の藤美事 母校内數箇所に在る藤花の美事なる事は諸兄の思出にあらう、本年も相變らず皆美はしく咲いたので丁度見頃の五月十四日、特に色、香共に優れた農場の藤見會があつた。生憎忙はしい頃だったので、針塚先生夫人を始め井上、阿形、石倉、原田、岡先生夫人の方々が来られ、校内の人は少なかつた。

校外實習生豫防注射 六月一日より製絲科三年生の校外實習開始を先驅に、製絲二年が六月下旬に、紡織二年三年が七月一日より、養蠶二年が七月上旬より夫々校外實習に近くは長野縣内から遠くは朝鮮にまで出られるので、學校では五月十四日傳染病の豫防注射をなし、同實習生の健康に満全を期した。

玉井寛次氏新任 昭和十年九月より母校絹紡織科人絹部に業手として勤められた玉井寛次氏は今回山崎普録氏の養蠶科入りに伴つて五月十五日母校屋に昇格し圖書課に勤務されることとなつた。



天祥蠶經過 數年來天祥蠶の飼育試験及び種々の研究をしてゐる母校昆蟲學教室では本年も母校及び松本市外有明演習林に於て之を行ふべく倉澤教授指導の下に、母校の天蠶は五月十五日、梓蠶は有明より幼蟲を運び、有明の天蠶、梓蠶は二十二日山付を行ひ成績極めて良好で母校の方は六月七日現在で天蠶は四眠中、梓蠶は三眠中、有明の方は四日現在で天蠶早口は二齡四日目、盛口は二齡一日目、梓蠶早口は三齡二日目、盛口二齡八日目である。有明演習林では學生土屋久雄、森三郎の兩君(蠶三)と業手一名が飼育試験に行つてゐる。

劍道部關東高農蠶道聯盟大會出場 學年末の試験の疲勞回復もせぬ四月初めより蠶室の宿直室に合宿し、志賀師範の熱心なる御指導の下に猛練習、制刷の目標へ邁進した劍道部は五月十五日當番校宇都宮高農道場に赴き覇を争つた。出場校は千葉高農園藝、東京高農園藝、宇都宮高農園藝、東京高農園藝、東京農業教育専門、水産講習所及び本校の七校で出場陣容及び戦績左の如し。

大將古平(紡三)	千園	3	3	3	4	3
副將小山(蠶三)	東農	5	3	7	5	3
工藤(蠶二)	宇農	6	6	7	9	7
有川(蠶三)	上農	5	5	7	3	5
中堅宮原(紡二)	農教	3	4	3	1	3
小川(蠶三)	東蠶	4	6	5	4	7
鈴木(蠶三)	水産	6	7	5	4	5
白井(蠶三)	産蠶教蠶農農園	3	4	3	3	3
中村(蠶二)	水東農上宇東千	3	4	3	3	3
先鋒松田(蠶一)	計	34	33	19	32	41

訪二見學旅行 絹紡織科二年生は目崎助教授に引率され五月十六日より六日間の豫定で工場見學旅行の途に上り、桐生日光、鹿沼、東京、横濱、横須賀、江之島等を廻り二十二日歸校したが、見學場所は工業大學、生絲検査所、織維工業試験所、船越商店、根岸商店、海軍工廠、横須賀軍港、日本製鐵株式會社其他各種紡績莫大小機械工場等であるが工場名は省略する。尙日光東照宮、明治神宮も参

新入生歡迎辯論大會 辯論部では五月十六日午後四時より大講堂に於て新入生歡迎辯論大會を開催した。題目、辯士は左の如くで終了後本館應接間に於て其の批評會を行つた。

- 一、閉會之辭 蠶二 加子三郎
- 一、挨拶 部長 香山助教
- 一、八紘一宇の大理想實現 紡三 淺井 清
- 一、斯く觀じ斯く語る 南木 嘉一
- 一、感激に生きよ 蠶一 水口 米雄
- 一、未 定 紡二 川合 久午
- 一、未 定 紡一 須藤 隆二
- 一、我輩の道徳觀 蠶二 加子三郎
- 一、太陽は何故輝くか 蠶三 富永 恭一
- 一、圓は丸いと云ふ 蠶二 河野 英記
- 一、閉會の辭

和田先生講師となる 蠶に針塚校長先生と行動を共にせられ教授を御退官された和田仙太郎先生は五月十七日講師に囑託され引續いて語學の講義をして下さる事となつた。

宮下丈夫氏御結婚 母校蠶絲化學教室に勤務せられる宮下丈夫氏(紡四)は今回良縁を得られ小諸町高橋重右衛門氏の妹約により小縣郡豊里村和田七郎氏長女泰子嬢と御結婚され五月十七日公園内富貴に於て披露の宴を張られた。新婦は小諸高女卒業の才媛で市内材木町に新家庭を持たれた御圓滿の程祈る次第である。

休暇變更 全国的に燃料節約の叫びれる折柄母校に於ても冬期一日當八〇圓乃至百圓と言ふ多大の燃料費を節約する爲に學校規則休業期間を變更し冬期休業を長くし夏期及び春期休業を短縮する事を五月十七日の教授會にて決定し文部省の許可を得た。即ち従來冬期休業は十二月二十五日より一月十日迄なるを十二月二十日より一月十五日迄として十日間延長し春期休業三月二十五日より四月十日迄なるを四月五日迄として五日間短縮、夏期休業八月一日より九月十日迄なるを九月

五日迄として五日間短縮した。この休業變更によつて冬期暖房費を千圓内外節約し得る譯である。東北帝大でも同方法を採つたと聞いてゐる。

倉澤教授御息逝去 母校倉澤教授の御長男俊夫氏(當年十七歳)は五月十二日腸閉塞の診斷にて上田病院に入院し十四日院長森醫師立會ひ長野市赤十字病院小池醫師執刀で大手術を受けられ、養蠶科學生數名の輸血を受けて経過良好と見られたが十八日突然容態悪化し再び小池醫師の手術を受けられたが効なく十八日午後十時四十分遂に長逝された。先生の御悲嘆、御愁傷一入の事はもとより前途幾春秋の希望を抱ける若き身を他界されたる事は全く痛惜の極みである。謹んで哀悼の意を表する次第である。

日幡一氏新任 本春製絲科を卒業された日幡一氏(蠶二五)は五月十八日付副手を命ぜられ母校蠶絲化學の奥教授の實驗室に勤務されることとなつた。

全校員太郎山登山 國民精神總動員下健康週間の第四日五月二十日、母校職員諸人、生徒(蠶三、蠶二)は養蠶實習中故不参加)約二百名は午前八時校門に集合して太郎山に向ひ十一時頂上に着し、宮城遙拜、井上校長先生の發聲にて帝國萬歳を三唱し盡食を共にして解散した。

徐洲陥落祝賀提灯行列參加 大會戰を豫想された徐洲會戰から徐洲陥落の公報のあつた五月二十日上田市は諸団体並に一般市民に呼びかけて祝賀提灯行列を行つたが、母校でも太郎山登山にて皆疲れてゐたが午後七時よりの同備しに欣然參加した。

學生の簡閱點呼 學生中島德健(蠶三)吉田耕三(紡三)、山口亮祐(蠶二)、小林剛(蠶二)、武井頼太郎(蠶二選)、宮田章(蠶一)の六君は五月二十一日午後一時より校内に於て配屬將校谷中佐より簡閱點呼を受け何れも成績良好であつた。

清水英一氏新任 長野縣南檢定所篠ノ井支所に勤務されてゐた清水英一氏(蠶二二)は五月廿一日付母校副手を命ぜられ製絲科に勤務される事になつた。

藤松利八氏退職 昨年十月より母校絹紡職科に副手として勤務せられた藤松利八氏(紡一五)は五月二十三日付退職され滿蒙毛織株式會社名古屋支店に榮轉された。益々御健勝の程を祈る次第である。

和田先生御弟逝去 母校和田先生の御次弟であられる井深俊雄氏は東亞同文書院を卒業されてつと長く滿支に活動されてゐたが五月二十四日亡くなられて先生は非常な御落膽であつた。同氏は支那語には非常に堪能であり陶器、金石に眼識があり非常に惜しまれてゐる。謹んで哀悼の意を表する次第である。

蠶二の蠶業視察 現に養蠶實習中の養蠶科二年生は十五名宛交代に第一班は浦生教授、鏗操副手引率の下に、第二班は宮坂講師、關副手引率の下に五月二十五六兩日鐘紡上工場、蠶業試験場上田支場、染織試験場、藤本蠶業株式會社を見學した。

海軍記念日講話 五月廿七日の海軍記念日には主催校小縣蠶業學校が都合悪き爲一日繰り上げて廿六日午後一時より母校學生は同校に赴き二時間に亘つて海軍機關中佐鈴木義長氏の「今事變に於ける海軍の活動」に就ての講話を傾聴して多大の感銘を受けた。

校内野球熱 好体育シーズンに入リ國民体位向上の折柄校友會各運動部は一齊に練習を始めてゐたが一般職員其他學生等もテニス、ピナホン等に興じ殊に軟式野球が旺である。五月廿八日(土)には化學チームと製絲チーム、紡績チームと本館チームの二試合あり、前試合は一

〇A對一で製絲チームの勝、後試合は一対一で本館チームの勝であつた。當日の試合には奥、野口教授、萩原、志賀、小林助教等も出場し實に愉快な試合であつた。尙各クラス間でも時々試合に興じてゐる。

石井清司氏退職 昭和九年四月以來母校學生課に体操教師囑託として勤務せられた陸軍中尉石井清司氏は五月廿一日付を以て本校を退職され長野縣社會教育課に榮轉される事となつた。益々御發展の程を祈る次第である。

香山助教、湯原講師渡滿支 母校絹紡職科の香山助教は滿洲國奉天省の某紡績會社のミュール据付の委囑を受け、湯原講師及び職工一名を伴ひ六月十日頃同地に出發する。而して同會社に於ける据付は大体一ヶ月の豫定で其の後大体十五日間を滿洲國及び北支の織維工業情況を視察される由である。

桑園擴張 毎年春蠶用桑に不足を來たし校外より購入してゐた養蠶部では其の不便、不經濟を解消する爲昨年十二月母校桑園東側に隣接する丸鐵軌道までの田四反五畝餘を購入し已に鼠返、改良鼠返福島大葉等春蠶用桑を植付けた。

各科校外實習豫定 例年の如く校外實習の時期となり製絲三年生は六月一日より開始された事は別記の如くであるが、其他の學生の校外實習豫定は次の如し。

- 學年 期 間
- 蠶二 七月上旬より約三十五日間
- 紡二 六月廿二日より七月十九日迄
- 紡三 全

製絲科三年生校外實習 例年の如く六月一日より七月卅一日迄二ヶ月間、製絲三年生は別記各工場に工場要務見習に出た。尙工場實習終了後は八月二日より〇印は神戸生絲検査所に於て、其他は横濱生絲検査所に於て夫々一週間宛生絲検査實習を行ふ事になつてゐる。

製絲科三年生校外實習 例年の如く六月一日より七月卅一日迄二ヶ月間、製絲三年生は別記各工場に工場要務見習に出た。尙工場實習終了後は八月二日より〇印は神戸生絲検査所に於て、其他は横濱生絲検査所に於て夫々一週間宛生絲検査實習を行ふ事になつてゐる。

製絲科第三學年校外實習派遣先  
及び學生氏名

Table with columns for location (所在地), name (氏名), and affiliation (名). Lists various silk-making schools and their students across different prefectures like Tokyo, Osaka, and others.

暑中見舞廣告募集

本紙の暑中見舞及年賀廣告は年々掲載数が増加しつゝありませう。之は偏に會員諸氏の本紙に對する絶大な御援助に依るものと深く感謝してゐる次第で御座います。扱て本年も例年の通り本紙七月號に掲載する暑中見舞廣告を募集致します。冗費節約勞々本紙援助の意味で何卒多數申込あらん事を切望します。

千曲時報編輯係

本會記事

本會日誌

五月十四日 時報發行日臨時變更屆提出す。  
五月十八日 在上海の飯島貞雄氏(紡一)に慰問品贈呈す。  
五月三十日 菅野三郎氏(蠶十)、鈴木實(鈴氏)の逝去せらるる電報にて弔意を表す。  
六月一日 新村幸三氏(絲十九)名譽の職死せらるる電報にて弔意を表す。

支會役員交代

安筑千曲會に於ては四月二十九日總會開備左の通り役員改選せり。  
支會會長 新任 皆川二郎  
副支會會長 岡村源一  
代議員 同 皆川二郎  
同 石井謙三  
同 龍川千曲會に於ては前會長皆川氏榮轉の結果左の通り改選せり。  
支會會長 新任 小林茂樹

向上資金御寄附

本會向上資金中へ左記の通り御寄附せらる、洵に感謝に堪へず御厚志に對し本紙上を以て御禮申上ぐる次第なり。  
一金拾五圓也 田浦 準

続後資金寄附者 第六回

金貳圓也 網村 眞、飯島 正胤  
中澤 勝也、篠田 平三郎、佐藤 一  
金壹圓也 岡崎 助、小山 惠治  
清水 英一、遠山 正人、井澤 喜三  
右小計金拾五圓也  
累計金六百七拾四圓五拾錢也  
先月號の累計金六百五拾九圓を金六百五拾九圓五拾錢也と訂正いたします。

會費領收

昭和十三年度會費金四圓也  
小川 保(蠶二) 二宮九二二(蠶四)  
栗原 章(蠶五) 橋本 武光(蠶七)  
勝文 藤夫(蠶九) 天野 末治(蠶九)  
原田 種龜(蠶九) 米田 俊雄(蠶十)  
竹村 中(蠶十) 松本 一(蠶十)  
宮川 繁治(蠶十) 鈴木 誠二(蠶十)  
笠原 四郎(蠶十) 鈴木 誠二(蠶十)  
遠藤 文平(蠶十) 酒井 五十三(蠶十)  
小林 茂樹(蠶十) 柳澤 柳二(紡七)  
笠原 正巳(蠶十) 柳澤 柳二(紡七)  
入會金納入者

叙任辭令

五月五日 奥 正巳 任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官六等九級俸下賜  
五月十一日 副手 古平 庄衛  
五月十四日 兼講師ヲ囑託ス 上田蠶絲專門學校教授 林 貞三 滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ス  
五月十五日 兼手 玉井 寛次  
五月十七日 圖書課勤務ヲ命ス 和仙太郎  
五月十八日 講師ヲ囑託ス 正三位勳一等 針塚長太郎 上田蠶絲專門學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク  
五月十八日 副手ヲ命ス 日幡 映一  
五月十九日 蠶絲化學教室勤務ヲ命ス  
叙從三位 和仙太郎  
叙從四位 和仙太郎  
特旨ヲ以テ位一級被進 和仙太郎  
五月二十一日 副手ヲ命ス 山田 良人 製絲教養成科勤務ヲ命ス  
副手ヲ命ス 清水 英一 製絲科勤務ヲ命ス  
五月二十三日 副手ヲ命ス 藤松 利八  
五月三十日 臨時副手ヲ免ス  
五月三十日 上田蠶絲專門學校校長 井上 柳梧 兼任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官三等  
卒業生之部 從六位 味知 廉三  
叙正六位 公立實業學校校長 櫻井 吉利 八級俸下賜 正六位勳六等 佐藤 良太郎 叙從五位 公立實業學校校長 土岡 光郎 九級俸下賜 公立實業學校教諭 深谷 正一 年功加俸年額金百九拾貳圓下賜 地方農林技師 藤勝 四郎 山口縣農林技師ニ補ス

母校之部

四月二十六日 兼講師 細川 豊 應召中ノ所四月二十五日待命歸郷  
四月三十日 雇ヲ免シ養蠶實習指導ヲ囑託ス 山崎 啓錄 雇ヲ免シ養蠶實習指導ヲ囑託ス 副手 金澤 勇  
五月一日 副手ヲ免シ園場實習指導ヲ囑託ス 小見 益男 蠶絲化學實驗指導ヲ囑託ス

叙任辭令

五月五日 奥 正巳 任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官六等九級俸下賜  
五月十一日 副手 古平 庄衛  
五月十四日 兼講師ヲ囑託ス 上田蠶絲專門學校教授 林 貞三 滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ス  
五月十五日 兼手 玉井 寛次  
五月十七日 圖書課勤務ヲ命ス 和仙太郎  
五月十八日 講師ヲ囑託ス 正三位勳一等 針塚長太郎 上田蠶絲專門學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク  
五月十八日 副手ヲ命ス 日幡 映一  
五月十九日 蠶絲化學教室勤務ヲ命ス  
叙從三位 和仙太郎  
叙從四位 和仙太郎  
特旨ヲ以テ位一級被進 和仙太郎  
五月二十一日 副手ヲ命ス 山田 良人 製絲教養成科勤務ヲ命ス  
副手ヲ命ス 清水 英一 製絲科勤務ヲ命ス  
五月二十三日 副手ヲ命ス 藤松 利八  
五月三十日 臨時副手ヲ免ス  
五月三十日 上田蠶絲專門學校校長 井上 柳梧 兼任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官三等  
卒業生之部 從六位 味知 廉三  
叙正六位 公立實業學校校長 櫻井 吉利 八級俸下賜 正六位勳六等 佐藤 良太郎 叙從五位 公立實業學校校長 土岡 光郎 九級俸下賜 公立實業學校教諭 深谷 正一 年功加俸年額金百九拾貳圓下賜 地方農林技師 藤勝 四郎 山口縣農林技師ニ補ス

叙任辭令

五月五日 奥 正巳 任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官六等九級俸下賜  
五月十一日 副手 古平 庄衛  
五月十四日 兼講師ヲ囑託ス 上田蠶絲專門學校教授 林 貞三 滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ス  
五月十五日 兼手 玉井 寛次  
五月十七日 圖書課勤務ヲ命ス 和仙太郎  
五月十八日 講師ヲ囑託ス 正三位勳一等 針塚長太郎 上田蠶絲專門學校名譽教授ノ名稱ヲ授ク  
五月十八日 副手ヲ命ス 日幡 映一  
五月十九日 蠶絲化學教室勤務ヲ命ス  
叙從三位 和仙太郎  
叙從四位 和仙太郎  
特旨ヲ以テ位一級被進 和仙太郎  
五月二十一日 副手ヲ命ス 山田 良人 製絲教養成科勤務ヲ命ス  
副手ヲ命ス 清水 英一 製絲科勤務ヲ命ス  
五月二十三日 副手ヲ命ス 藤松 利八  
五月三十日 臨時副手ヲ免ス  
五月三十日 上田蠶絲專門學校校長 井上 柳梧 兼任上田蠶絲專門學校教授 叙高等官三等  
卒業生之部 從六位 味知 廉三  
叙正六位 公立實業學校校長 櫻井 吉利 八級俸下賜 正六位勳六等 佐藤 良太郎 叙從五位 公立實業學校校長 土岡 光郎 九級俸下賜 公立實業學校教諭 深谷 正一 年功加俸年額金百九拾貳圓下賜 地方農林技師 藤勝 四郎 山口縣農林技師ニ補ス



針塚長太郎先生謝恩記念資金募集

針塚先生の御勇退に關しては已に四月號本紙上に於て御報告致した通りであ...

- 一、金 額 一口三圓 一口以上但し準會員は一圓以上
二、申込期限 七月十五日(口数にて申込むこと)
三、拂込期限 十月末日
四、送金先 本會宛 (振替口座長野六二四三番)
五、領收書は時報に掲載し之に代ふ
六、贈呈方法 今秋代議員會理事者一任 以上

校歌レコードの頒布

待望久しきレコード成る。針塚先生の肉聲は眞に迫りて恰も親しく嚙咬に接するが如く、校歌...

應召者並に召集解除者に就て御願ひ

一、應召者に就て 本紙會員勸諭欄へ登載以外に應召會員御承知の方は左記事項至急本會迄御...

出征會員慰問資金募集

本會出征會員慰問資金募集に關しては各位の御盡力により五月末日現在金六百七十四圓五十錢となりました...

針塚長太郎先生謝恩記念資金受領報告(第一回)

- 金參拾圓也(十口) 浦生俊興(蠶一)
倉澤美徳(蠶二) 林 貞三(蠶三)
林 清市(蠶九) 齋藤菊雄(蠶六)
金貳拾四圓也(八口) 野口新太郎(紡二)
金貳拾壹圓也(七口) 須田圭二(蠶二)
金拾八圓也(六口) 山口定次郎(蠶五)
窪田 潤(蠶七) 萩原清治(蠶七)
香山 清和(紡三) 丸茂まさ江( )
金六圓也(二口) 藤澤 豊( )
金五圓也(一口) 山本 誠(蠶七)
竹内好武(蠶七) 田中 齊(蠶七)
右合計金貳百八拾壹圓也

滿洲雄飛を希望の會員に告ぐ

今般滿洲より母校倉澤教授の許に左の如き採用募集公告が来た。既に滿洲國には三十有餘名の吾が會員が...

滿洲帝國高等文官(技術官)採用募集公告

康徳五年五月 滿洲帝國政府

滿洲帝國高等文官(技術官)採用ノ詮術ヲ左記ニ依リ施行スルニ付應募者ハ必要...

書類ヲ取揃へ國務院總務長官ニ提出スベシ

- 一 應募資格 左記資格ノ一ニ該當シ年齡滿二十六歲「康徳六年(昭和十四年)四月末日現在」以下ノ男子
(一) 特殊技術ヲ專攻スル滿洲國ノ大學卒業者又ハ採用迄ニ見込アル者
(二) 特殊技術ヲ有スル滿洲國政府職員ニシテ本局長官ヨリ推薦セラレタル者
(三) 特殊技術ヲ有スル者ニシテ滿洲帝國協和會中央本部長ヨリ推薦セラレタル者
(四) 特殊技術ヲ專攻スル日本國ノ高等專門學校以上ノ學校卒業者又ハ採用迄ニ卒業見込アル者

二 詮術方法

- (一) 詮術期日：康徳五年(昭和十三年)自九月上旬至下旬
(二) 施行地：新京、東京、京都、仙臺、瀋陽及京城ニ於テ行フ
(三) 施行場所：施行場所ハ各應募者ニ追テ通知ス
(四) 採用通知：採用者氏名ハ康徳五年(昭和十三年)十月中旬迄ニ滿洲帝國政府公報及日本帝國官報ニ發表スルト共ニ各採用者及當該學校長又ハ推薦機關長宛採用通知ヲ發ス

三 應募手續

- 康徳五年(昭和十三年)五月二十日ヨリ七月二十日迄ノ間ニ左記書類ヲ取揃ヘ國務院總務長官ニ提出スルヲ要ス
(一) 學校卒業者又ハ採用迄ニ卒業見込ノ應募者ノ提出スベキ書類
1 採用願書(本人自筆ノモノ)
2 履歷書(同右)
3 家族調書(同右)
4 最終學校長ノ人物考査書(依體形)
5 最終學校ニ於ケル學業成績表
6 健康診斷書(學校醫又ハ官公立醫院ノ證明シタルモノ)

7 寫眞一葉(最近撮影ノ手札型、上半身、正面ノモノ)トシ裏面ニ氏名生年月日及撮影年月日ヲ自署スルコト

- (一) 前號以外ノ應募者ノ提出スベキ書類
最終學校長ノ人物考査書及學業成績表(中等學校以上ノ學歷アル者ニ付テハ學業成績表ヲ添付スルヲ要ス)
ニ代フルニ應募資格ヲ認證スルニ足ルベキ書類ヲ以テ滿洲帝國政府職員又ハ滿洲帝國協和會中央本部長ヨリ推薦セラレタル者ニ付テハ夫々本局長官又ハ滿洲帝國協和會中央本部長ノ推薦狀及人物考査書ヲ以テス其ノ他ニ付テハ前號ニ同シ

四 採用人員

- 五十名以内「專攻科目土木工學科、農業土木科、建築科、電氣科、探礦冶金科、農學科、林學科、農藝化學科、應用化學科、畜産科、獸醫科、醫科(齒科ヲ除ク)」
(一) 採用者ハ康徳六年(昭和十四年)四月高等官試補ニ任用ス(高等官試補ハ高等官ニ準ズル待遇ヲ受クルモノトス)
(二) 任用ト同時ニ大同學院ニ入學セシム高等官トシテ必要ナル訓練ヲ受ケシム在學期間ハ約六箇月トス
(三) 大同學院在學中ハ俸給ヲ支給スルノ外特殊ノ被服及修學ニ必要ナル圖書其ノ他ノ物品ヲ貸與ス

- 備考
一 採用者ニハ現住所ヨリ新京迄ノ旅費ヲ支給ス
二 提出書類不備ノ者ニ付テハ詮術セザルコトアルベキニ付注意ヲ要ス
三 提出書類ハ第三項記載ノ順序ニ取揃ヘ提出スベシ
四 願書其ノ他ノ提出書類ハ封筒ニ封入シ表面ニ「高等官(技術官)應募願書在中」ト明記シ持参又ハ書留郵便ニテ提出スベシ
五 詮術地迄ノ旅費其ノ他ノ經費ハ自辨トス
六 採用後ノ待遇其ノ他ノ詳細ニ付テハ直接若ハ四錢切手封入ノ上各學校當局、國務院總務長官事務處又ハ駐日滿洲國大使館(東京市麻布區櫻田町)宛照會セララルベシ





支會通信

龍川會便り

先般井上先生をお迎へして楽しい會合の機を得た龍川會は、本年は何たる幸多き事か今回は針塚先生の聲に接し得る機会に恵まれたのである。

「五月十四日下伊那教育會總會開會、當日特別講演の招待員は信濃教育會會長針塚先生」との新聞報導は我々龍川會員一同を狂喜せしめた。私などは學校で他の職員から十四日には針塚先生が来られまねなんて言はれて何となく肩巾が廣い様な感じがした。最近書いていたいたばかりの職員室の針塚先生御揮毫の協心戮力の額の大字は一層躍動して居る様に思はれた。

併し心配であつたのは先生の御疲勞と又教育會方面へ一晩中先生を奪はれはしないか、そして吾々が先生に拜顔出来る時間が少くはないかと言ふ點であつた。併し幸に御疲れをいとはざる先生の御好意と、小林會長の努力による教育會側の好意により愈々先生を御招きしての龍川會を催し得るに到つた時は、眞によき褒賞を得た稚兒の如くに昇る心地して時の来るのを待った。

當日の教育會に於ける先生の御講演は、崇高なる先生の御人格の流露とも見る可く洵に時局にふさはしき感激と教訓とを一千有餘の下伊那教育者にしかと植ゑつけられた。あの眞摯な意氣横溢せる尊い

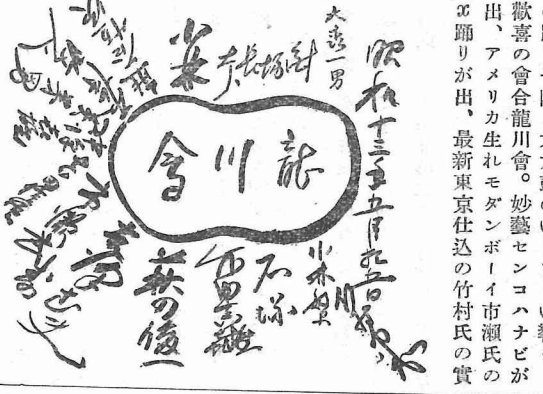


御訓言の數々は教育者をとほして生徒へそして十七万下伊那の大衆の胸の中へ新しい生氣と活力とを吹き付けたのである。聴講職員中には先生の御話をきく爲に二泊三日の豫定で、はるばる山中の學校から出掛けて来たものも多し由であつた。

やがて午後八時半、愈々我等が龍川會の席に先生を御迎へするを得たのである。先生には今日のあの講演の御疲れは少しも御見せにならず、愈々墨鏘たる御元氣であらせられた。暫く親元を離れて居た子等が待望の父母にま見へた心情でただ眼頭を熱くして先生をお迎へした。そして内心先生の愈々御健康であらせられるのを心から喜んだ。

支會長小林茂樹氏の歡迎の挨拶について、先生の御挨拶と母校の御状況について御説明がありやがて宴がはじまつた。先生の御挨拶の中に特に私共の喜びであつたのは先生の御健康の愈々勝れさせると今後とも上田に御在任愈々學校發展に御力添へ下さり、併せて我々の御指導御鞭撻を賜はり得る事とであつた。

集へる下伊那在住會員全部、而も諏訪の西澤君も折よく來會され、一同喜びに充ち、勇んで飲みたるの歌ひ、朗かに踊りしてなつかしさに溢れて先生の御訓へを受けた。我が子等のみの集ひに先生の御容子も一段と御満足の御様子に拜した。今日の喜びは又格別か徳利の空き方も實にスピードがあつた。高し聲、サワリよき三昧の音、優婉と武骨入り響きての踊り子陣、大太鼓のいきまじり響き、歡喜の會合龍川會。妙藝センコハナビが出、アメリカ生れモダンボーイ市瀬氏の踊りが出、最新東京仕込の竹村氏の實



に優美な舞踊が出、吉澤氏を皮切りに岳風はだしの詩吟が續々と出た。先生の堂に入った朗吟は一入明るく座中にひびき渡つた。

やがて支會長の發聲で針塚先生の愈々御健康と御幸福とを念じ聲高らかに萬歳を三唱ついで先生の御發聲で龍川會の萬歳を三唱した。

絲二一回集會だより

農林省蠶絲局内 岩本

「有朋自遠方來、不亦樂乎」三〇名の級友一たび袂を分ちて既に四歳、その別れ易く會ひ難きを歎きおろし處不圖も舊日東の面々所用あつて上京し來り一同互に再會の喜びを共にし一夕歡談するところあつた。

前日池田君よりの内報に依り在京同級生欣喜して準備打合せを爲し四月二日午後五時上野驛に迎へた、來たる者は遠く日向の果から金丸功君を初め同じく九州の三宅農富榮君、岐阜の田ノ岡實君、池田爲雄君、東北からの高橋英君に松本から永田俊三君、埼玉から林正平君も參集し地元の一之瀬茂君に筆者の計九名にて其の三分の一を集め得たる稀にみる盛會であつた。

夕靄に東照宮の五重塔が浮び上る頃一夜の暖氣に咲初めた岸の櫻の匂ふ一刻千金の宵池乃端一平莊に暫しの宴を開く、四年間の日月はその社會生活の烈しさを語る如く互の面貌の上にも複雑の影を表して居るが相見の程に語る程に校門を別れた日も遂昨日の様に思はれ今更ながら「何年程つても如何程隔て住んでも心置きなく語り得るは級友」の喜びを感じるのであつた。

金丸君 雪國育ちの血色のよかつたその顔色がや、勝れぬと思つたら昨年死ぬ程の大患をしたとの事あの體力に物言はせて頑張りすぎたらしい。

三宅君 金丸君と同じく小生四年振り會合、肩を叩くと昔變らぬ「イヨ」と元氣な聲、明るく氣速な點もその儘、芋焼酎の洗禮を受けても酒量上らぬとみえ最先に横になるもう一度君の名技「ツエツペリン拍手」を見せて貰はうと思つたのに。

田ノ岡君 君はクラスの元老であり修巳寮の主であつた何時迄もドツシリト腰を据えていて「この方が氣樂で」などと云はずに早く一戸を構えて欲しい、後が支えている。

池田君 君とは學窓以來一番顔を合せたるかも知れぬ世話好きで活動的で日東時代から上海くんだりまでも歩いて歩いて、近く新家庭に「ゴールイン」するとは彼自身の言葉。

高橋君 信念居士と異名を採つた彼の理論が果して實社會と相容るゝや聊かの危懼を懐いていた所益々以てその信念を固め直向きな情熱を燃やしてゐるらしいのに敬服する。

永田君 デベン熊さんの語源と思はれる熊谷から改姓して既に數年になる叔父の家を嗣いだだけて實質は獨身の由なれど故郷に奉職してそれも最早時の問題らしい。

林君 何時の間にやらスカートホームを形造つて年賀狀にベターハーフと名を連ねてよこすチャツカリ屋此の日唯一の妻帯者で目下「一」を催す中の由、さういへば寫眞に表はれた所にも何處かに一家の長らしい重味が見える様だ。

一ノ瀬君 白きガウンに身を包んで若き異性をパートナーとして研究室に収まつてゐる君はクラス中比較的變つた境地にある。竹刀を握つたり詩吟をやつたりして専ら國民精神の高揚に勉めて居る由筆者 キヤピタルライフに常に壓悪を



感じつゝも今では此の俗界から離れて住めなくなりつゝ在る、數多い先輩諸兄の庇護を受けつゝも何時か下から押上げられて七人の後輩を持つ身になる目下歌舞伎に凝つて都座の中に生きて居る。

互に体験を語り人生感處生術に及んでの結論は一にも二にも三に迄も押しと云ふことに期せずして一致した矢張り今の時世に於ては何れにあつても心臓の強さが痛感されるのであらう。

さなきだに更け易い春の宵は果しなく繰廣げらるゝ想出の絲に其の短きを怨みつゝ勤めの身なれば盡きぬ名残を次の機会に譲つて八時過ぎ散會する。

尙當日は菅野、新野、坂入の諸君も參集あるべき筈の處夫々所用あつてこの心曠しき小宴に會する能はず残念であつた。此處に良き機會を與えて呉れた出席者諸君に感謝の意を表し、時報の紙上を借りてこの歐文を綴り當日一堂に會することの出来なかつた異郷にあるクラスメイト各位に其の大様を報知すると共にその安否を問ひ、併せて健在ならんことを祈る次第である。

(寫眞 右より前列金丸功、田ノ岡實、永田俊三、林正平、後列岩本賢次、高橋英、?、三宅農富榮、?、池田爲雄一之瀬茂)

安統支會便り

昨年はいろいろの都合で支會の總會を開く機会を失つてゐたが今年には當支會長として種々御苦勞を願つた久保田正樹氏はこの三月長野の蠶業試験場に榮轉されたのでその後任問題もあり又會のメンバーも相當變り新入會員も多數あることなればその歡迎會を兼ね會員相互の親睦を彌が上にも圖らうとして四月二十九日の天長節の佳き日を選んで松本市屈指の料亭である松本館に於て總會を開催した。小學校の生徒が旅行の日を待つ時の様にお互ひにその日が如何に待遠しかつたことかわからない。

この日本會よりは野口教授が御多忙中を御來會下されて一層會を有意義にされた事を一同深謝する次第である。尙前支會長久保田氏を御招待して置いたのであるが御都合が悪く御臨席なかつた事は残念だつた。會員の出席者は二五名出席率五三%稍々少い憾みがあるがこの會でも總會に五〇%以上の出席者があれば満足せねばなるまい。

當支會員數は五五名、その中で早乙女新一郎氏を始めとして倉澤一二三氏、白川孝昌氏、有我彰夫氏、赤池勝馬氏、鈴木茂氏、山村泰三氏、桐原達郎氏の八名を名譽ある應召者として送つてゐる事は當支會の誇りである。この諸兄等は野戰或は原隊に於て東亞永遠の平和確立のために赤誠以て御奮闘されてゐるのであるがその勞苦に對しては我等一同は常に敬意と感謝をしてゐる次第である。

午後三時開會岡村副支會長座長となり議事進行を圖る。藤本幹事よりの會計報告も異議なく一同の承認となり次で役員の改選が行はる。先づ大先輩山本辰五郎氏外四名の監衛委員に依り監衛の結果幹事は皆川二郎氏外十二名代議員は皆川二郎

氏及石井謙三氏の兩氏と決定する。次に會則に従ひ支會長副支會長は幹事の互選により支會長は皆川二郎氏、副支會長は岡村源一氏と決定する。

役員改選後野口教授より針塚前校長先生退職の頭末並針塚先生謝恩記念品贈呈に關して詳細なる説明があつて後愈々待たれた懇親會に移る。

先づ皆川新支會長の開會の辭に懇親會の聲は切つて落され最初の第一盃は聖壽の萬歳を壽ぎ奉り第二の盃は出征會員の勞苦を深謝し併せて健闘を祝福する、續いて第三、第四と盃の數は重ねられる、この一堂に會せしものは年にこそ蒸はあつても皆蠶絲の道を究むるために松尾城下に於て不易の校是により培れた人達丈けである。誰にも氣兼ねの必要がない水入らずの兄弟達の集ひである、それに酒間を幹旋する美人は何れも松本一流の名妓である。

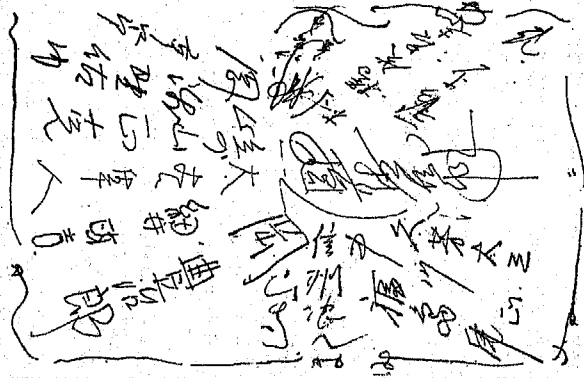
誰の類も歡喜に充ちてゐる。時移れば何れも各自の席を抜け出して此處彼處に數人の一團を造り酒杯の應酬は益々盛んに行はる。胸襟を開いての歡談爆笑は盡くする處を知らない、その内に得意の隱微が飛び出す。殊に新入會員の吉瀬重正君の贈語りは何處で覺えたものやら實に堂に入つたもの流石藝を以て業としてゐる美人も感歎して讚辭を惜しまぬ。遂にアンコールとなつて二回贈らせられる。統制をうけぬアルコールは陸續と運ばれてこの樂しき會は何時果てるやら知れぬ、勿論美人の酒間を幹旋する時間は豫定より延長して終ふ。

時計が九時を打つた時母校の發展と安統支會の前途を祝して天地にも轟けと萬歳を三唱して名残り惜しくも散會する。酒戰酣なる時恒例により次の如き寄書をする。(藤本衛佐雄記)



みすゞ會歡迎會

此の寄書は岡教授御出張の途次愛知縣一ノ宮市 愛知縣毛織物検査所内みすゞ會にて五月十八日同先生の歡迎會席上にてのされ時報係宛に寄せられたものである。



新任御挨拶

謹啓初夏之候愈々御清穆の段奉賀候、陳者小生儀今回不測も上田蠶絲専門學校教授に被任候に就ては固より淺學非才の身には候へ共職責に全力を盡す覺悟に御座候へば何卒格別の御誘掖、御援助を賜はり度伏而奉冀上候先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 蠶絲化學教室 奧正巳

新任御挨拶

謹啓新緑清冽之候愈々御清祥の段奉賀候、陳者小生儀長野縣蘭検定所係ノ井支所在勤中は一方ならぬ御懇情に預かり難有感銘仕候、今般都合に依り同所を退職致し母校副手として蠶絲科に勤務致す事と相成候に就ては不相變御指導御鞭撻の程願上候先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 清水英一

轉勤御挨拶

謹啓時下新緑清冽の候愈々御清祥の段奉賀候、陳者小生儀母校絹紡織科在勤中は格別の御配慮を賜り難有厚く御禮申上候に御蔭今般轉勤毛織株式會社に入社仕候間何卒不相變の御叱正御鞭撻の程願申上候、先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 名古屋西區光音寺町 滿蒙毛織株式會社 名古屋支店 藤松利八

御挨拶

謹啓新緑之候愈々御清勝に被爲業奉慶賀候、陳者私儀滿洲國中誠は公私格別の御懇情を賜はるを以て在官六年間御禮申上候に就ては固より淺學非才の身には候へ共職責に全力を盡す覺悟に御座候へば何卒格別の御誘掖、御援助を賜はり度伏而奉冀上候先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 本間國夫 奉天八幡町十二 齋藤八郎

新任御挨拶

謹啓時下新緑之候愈々御健勝之段奉賀之至に奉存候、陳者小生儀今回母校副手として蠶絲化學部に勤務致す事と相成候に就ては今般共宜御指導御鞭撻賜度懇願仕候、先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 日幡映一

新任御挨拶

謹啓新緑之候愈々御清祥被爲涉慶賀至極存候、陳者私儀絹紡織科人絹部勤務中は種々御配慮御引立を賜はり誠に難有厚く御禮申上候、今般雇を命ぜられ圖書課に勤務致す事に相成候に就ては固卒倍舊の御指導御援助の程偏へに御願申上候、先は右略儀以紙上御挨拶申述度如斯御座候 敬白  
昭和十三年五月 玉井寛次

會員動靜 (六月四日現在)

- 上原清夫(一) (勤) 德島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
片岡清治郎(五) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
櫻井吉利(六) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
橋本武光(七) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
菅野三郎(一〇) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
宮川繁治(一三) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
朴世烈(一六) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
本間國夫(一七) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
佐藤克治(一九) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
高木修(二〇) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
平岡英司(二二) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
江口嘉清(二三) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
出野正雄(二四) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
田澤輝雄(二五) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
戸塚修(二六) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
内藤康三(二七) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
鈴木誠一(二八) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
西孝重(二九) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
荻野俊一(三〇) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
鈴木實夫(三一) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
角替起夫(三二) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
正木章三(三三) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
山田良人(三四) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
山田保士(三五) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
山田茂(三六) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
丸山勲(三七) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
原田正(三八) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
清水英一(三九) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
丸山泉(四〇) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
切岩作次(四一) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
青木静志(四二) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
本庄昇(四三) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
村上義美(四四) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
吉川啓人(四五) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
宮田修(四六) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
成澤榮一(四七) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
日幡映一(四八) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
清水保(四九) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
高橋利光(五〇) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
安井健一(五一) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
松澤榮一(五二) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
小澤利雄(五三) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
藤松利八(五四) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五
佐藤住良(五五) (勤) 徳島市、徳島縣農務課(住) 徳島市前川町字前川九五

計報

小林敏子(舊) (勤) ナシ(住) 小縣郡青木村四八八
坂場もと(舊) (勤) ナシ(住) 山形市七日町三島通一〇〇
黒澤壽喜子(教) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹

故増田孝氏 御遺族よりの禮狀

拜啓 愚息故孝儀生前は深甚なる御懇情を賜はり候處武運拙くして御高恩に酬るの儀を得候事遺族千萬元に存じ候遺族儀の節は過分なる御香資を頂き早速御挨拶申上ぐべき筈の處遂に今日に至り候事洵に申謝無之候

故高木晋氏 御遺族よりの禮狀

謹啓 時下新緑の候愈御清適之段奉慶賀上候、陳者今般陸軍軍重兵特務一等兵高木晋儀今事變に出動以來御熱情あふれたる御後援を忝うし尙此度戰傷死致し候處不圖も町葬の禮を以て御厚禮を賜はり候際人の公譽は勿論一家一門の光榮も亦之れに過ぐるも無之と存じ居り候然るに其の上御重なる御弔詞、御香奠並に御供花を頂き御芳情洵に難有感謝感激の極みに御座候

甲慰金募集

故市川清男氏(一六) (勤) ナシ(住) 小縣郡青木村四八八
故高木晋氏(一七) (勤) ナシ(住) 山形市七日町三島通一〇〇
故菅野三郎氏(一八) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故鈴木實夫氏(一九) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故角替起夫氏(二〇) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故正木章三氏(二一) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故山田良人氏(二二) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故山田保士氏(二三) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故山田茂氏(二四) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故丸山勲氏(二五) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故原田正氏(二六) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故清水英一氏(二七) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故丸山泉氏(二八) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故切岩作次氏(二九) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故青木静志氏(三〇) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故本庄昇氏(三一) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故村上義美氏(三二) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故吉川啓人氏(三三) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故宮田修氏(三四) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故成澤榮一氏(三五) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故日幡映一氏(三六) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故清水保氏(三七) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故高橋利光氏(三八) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故安井健一氏(三九) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故松澤榮一氏(四〇) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故小澤利雄氏(四一) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故藤松利八氏(四二) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹
故佐藤住良氏(四三) (勤) ナシ(住) 小縣郡神村野竹

故村田孝男氏 御遺族よりの禮狀

謹啓 時下新緑の候貴會各位益々御健勝之段奉賀候、陳者先般愚弟孝男死去に就きては御懇篤なる御弔詞を辱し且つ御鄭重にも御香資を賜はり御芳志寔に難有奉深謝候、定めし靈も地下にて感泣致し居ること、存せられ候、就ては貴會各位に夫々御禮申上ぐべく存候も不取敢宜敷御申進め被下度候

甲慰金報告

故松尾順策氏甲慰金第四回 中村守太、須田國之助、中島静太郎、金武岡也、岸勝彌、伊藤清、登坂忠吉、遠藤文平、栗原章、右小計金拾貳圓
故手塚達郎氏甲慰金第一回 池田俊郎、手塚恒次、金武岡也、岸勝彌、熊谷恒夫、多田忠正、鷹野誠一、關博夫、右合計金九圓也
故手塚君弔慰金(同級生町田報)第二回 前島正治、高野賢造、金武岡也、進沼光治、林四郎、金武岡也、進沼光治、林四郎、御願ひ致し度候(於母校、町田)
故市川清男氏弔慰金第一回 伊藤清、金武岡也
故笠原松平氏弔慰金第一回 伊藤清、金武岡也
故藤澤喜一郎氏弔慰金第一回 近藤清一、金武岡也
故野三郎氏弔慰金第一回 竹村中和、金武岡也

編輯室より

△北支の治安維持も成つて政治、經濟、産業、文化等凡ゆる方面の工作が成されんとする折柄各地の認識を深める事は急務である。吾が千曲會でも其の産業工作振興に貢献せんものと已に滿支産業調査會を設立し種々と調査研究を爲しつゝあるが、時恰かも母校林貞三教授には前號記載の如く鮮滿支に亘つて講演、視察の旅に出られた事は母校の名に於ても産業調査會にとつても實に有意義であつた。△曩に鮮滿支方面への旅に出られた林貞三教授、湯原謙輔師が滿支への旅に出られた事になり彼地と母校とは宿縁があるらしく、母校の發展性が豫約されてゐる感がある。△第七面記載の滿洲國高等文官(技術官)採用募集公告を見ればアムビシヤな若き會員は血が躍るであらう。熱血漢は振つて應募あれ。△本月號は編輯部の香山清和、湯原謙の兩氏が滿支への旅に出る準備の都合上小生が征矢克郎氏と共に全く未経験ではあつたが教はり、編輯したのであるから不編の點が多からうと思ふが御諒承を乞ふ次第である。△藤本衛佐雄氏の「安統支會便り」は一行十八字詰に書かれて無かつたので忙はし編輯中に非常に手数を取つた。投稿される時は一應投稿規定を御覽願ひたい。(町田 博記)

優良蠶種案内

昭和十四年度春蠶種
×分離白一號 絲質特優
×分離白二號 絲量最多
×分離白三號 絲質特優
×分離白四號 絲量最多
×分離白五號 絲質特優
×分離白六號 絲量最多
×分離白七號 絲質特優
×分離白八號 絲量最多
×分離白九號 絲質特優
×分離白一〇號 絲量最多
×分離白一一號 絲質特優
×分離白一二號 絲量最多
×分離白一三號 絲質特優
×分離白一四號 絲量最多
×分離白一五號 絲質特優
×分離白一六號 絲量最多
×分離白一七號 絲質特優
×分離白一八號 絲量最多
×分離白一九號 絲質特優
×分離白二〇號 絲量最多
右各原種分譲の御相談に應ず
廣島縣御調郡奥村農林目兵衛
蠶種業 小川 保
電話 市村局一四二番
振替(廣島)二四六番
(大阪)三三三番
電報は市村局別便配送料不要